

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

シフト

この仕事を始めて1年強が経過していた。その間に班長、副主任、主任と3階級も出世していた。給与もこの年齢ではなかなかもらえる額ではなかった。このスピード出世はこの業界の特色でもあるが、私の場合、恵まれた条件、環境にいたということが多大に関与したといえる。三重に新規開店の他府県からのチェーン店であったこと、オープンングスタッフだったこと、さらには他の従業員たちがとても慕ってくれたことなどがその理由としてあげられる。また、店長が楽をしたがるという点もこの出世の裏には大きな影響があったかもしれない。ただ、自分自身を褒めるわけではないが、必死で頑張ってきたという実感もある。じつさい、この時すでに私と同期の社員は女性一人のみだったのだ。

この店の第2の責任者となった実感、そこには高揚感や達成感は存在しなかった。後ろを振り返ってみても誰も見守ってくれていない、実質上の最後の砦。それが崩れるわけにはいかないのだ。生まれてこの方そのような状況に追い込まれたことはない、必ず誰かが後ろにいたからだ。まあいいや、自分がコケても、後ろの誰かがなんとかしてくれるさ！なんて考えができなくなつたのだ。それと同時に、今までの甘さや幼稚さを目の当たりにしたという発見もあった。これからは自分で判断し、そして決断する、さらにそれが自分の責任になる、こ

の圧力がいかに強力か、まだ来ぬ「その時」ではあったが、私の身体はすでにそれを鋭く感じ取っていた。

もともとシフト表を作成していた副主任は、過酷な労働体制を自らに課していた。素人集団を野放しにするなどあり得ないと考えたからだろう。また、店長の手を煩わすべきではないという考えもあったのだと思う。これらを一括して言い換えるならば、まさに私が感じたその圧力に他ならない。きつと前主任はそれがあるからこそ、その過酷なシフトの作成に迷いなど無かつたのだと思う。

確かに今は、班長も3名おり、従業員自体もホール内のこととは良くわかつている。それでもいざと言うときの対応、対処ができない。結局、状況は前主任時と大差はない。ならばやはりこうすべきだと、私はその過酷な労働体制を自分に課したのだった。

連勤

朝の開店から閉店作業までの勤務が連続10日程が過ぎたころ、店長が私に声をかけてきた。

「おい、A。今から閉店前まで休んでいい。班長が2人もいるんだ大丈夫だろう。それから、このままではお前の休みが取れんぞ。さっさと朝の開店準備ができるやつを作らないと、お前の休みは一生無いぞ。」

「はい、分かりました。ありがとうございます」
店長のこの発言、意外ではあったが正直ホッとした。完全なる休日が今のところ取れないにしても、途中の休憩が許されたのである。遅番の班長が出勤してきたから閉店1時間前までという長い休憩である。長い休憩であるが中途半端でもある。なのでいつも仮眠室で寝るか、近くのパチンコ店で時間を潰すかのどちらかになっていた。

連続勤務が15日を越えたとき、とうとう私は自分のシフト表の欄に「休」という文字を入力した。この2週間、3人いる班長を一人ずつ順番に早番にいれ、開店作業を教えてきた。3人ともが熱心に覚えてくれていった。もう大丈夫だろうと決断したのだ。

「明日、お休みを頂きます。ただ、彼らは鍵を持っていませんので、鍵だけは開けに来ます。早番に班長2人、遅番に1人です。それと閉店作業ですが、店長お願いできますか？」

「わかった、俺がやっておくよ。打ち変え面倒だから全台据置だな、ひやはは！」

前主任は休むことが無かつたし、店長に仕事をさせるなんてあり得ないことだ。しかし私は私。これが正しいと判断したのだ。何でも言えるということ、部下や後輩だけでなく、上司や先輩にも遠慮なく言えることが大切なのだ。

私と従業員

シフトを作成するに当たって私が最も徹底したことは、従業員を最優先ということだった。店長がシフトを作成していたときは、皆も店長には言いにくいらしく、遠慮がちだったことが容易に分かる。それらを全て解消し、オープンなシフト作成を心がけた。早めの作成と希望通りの休み、食事休憩の1時間さえも綿密に考えた。皆と一緒に休憩させることはできないので、11時〜14時の間に2人ずつ休憩させる。学生の頃、お昼ご飯というものは、友達と食べるものだ。理由は楽しく食事ができるということに尽きる。それは社会人になってもかわるまいと、極力仲の良いもの同士を同じ時間にしていた。そうであったからこそ、従業員たちもこちらの都合もよ

私と店長

独特の雰囲気を持つており、つかみ所が良く分からない、何を考えているのかからない、といった感じの人だった。誰一人として店長に苦意意識の無い従業員はいなかった。私も例外ではなかったし、前主任も同様だったと思う。

それが主任となり、T副主任が辞めてしまった今、私への対応が少し変わったような気がした。前項で述べたような

最近の戦況

店長の発言自体が信じがたいものだったからだ。明らかに私を氣遣つての言葉である。もちろんこれは過酷な労働条件に従事するものへの当たり前の配慮ではあるが、店長に限ってそれは疑問だった。サクラ事件に代表されるように、自分本位な性格だからである。そう考えると、いま辞められると困るという、自分本位的な理由からというほうが説得力はある。

そういつたこととは別の面でも変化

最近、調子悪いです。いろいろなホールを転々としておりますが、どーも調子悪いです。原因は適当に座るつてことなんでしよつが、仕事の都合上打てる時間も限られてくるし、朝から狙い台取れないし、とかの言い訳をしておきます。引きも弱いのかも？その代表的な例が、緑ドンで21連万里ゲット。しかし、その間ボーナスはREG1回。ウルトラマンにて、親父が20連チャンRTを達成、しかし仕事でやめなければいけないという理由で、私に交代。なんとそのRTは58連を達成！しかしその間のボーナスはREG1回。ジャグ

ラーにてBIG17回までは良好な確率、しかし18回目のBIGは2600ゲーム後でした…(REGはその間に4回当選してる)。終わってます。確率は収束することを信じ、来月頑張るとしましよつ。

ウルトラマンザスロウト山佐の2008年12月
斎威の58連達成でしたが、隣のおじさんはちょうど80連してました(汗)

アイムガラーSP(北電子)2008年7月



ART搭載のドンちゃんシリーズ。20連目に「伝説の緑」になりました。



4号機時代とゲーム性はあまり変化はない。機械割も同程度。わけのわからない連荘性能が人気。

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。